

試験番号：II J - 0 7 - 0 0 1 1
受付日：平成 1 9 年 5 月 3 0 日

木造接合金物の強度試験
報 告 書
〔丸座付ボルト／引張試験〕

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成19年10月4日

財団法人 日本建築総合試験所
試験研究センター
センター長 工学博士 井上 豊



技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	木造接合金物の強度試験 〔丸座付ボルト／引張試験〕	
依頼者 (所在地)	株式会社 ダイドーハント (大阪府大阪市中央区西心斎橋1丁目5番5号)	
試験実施日	平成19年6月26日	
試験体	形状寸法	図-1.1
	接合具	商品名 : 丸座付ボルト(φ58, t=6mm:M16) 丸座部分 ; SPHC (JIS G 3131) ボルト部 ; 強度区分4.6 (JIS B 1051) 表面処理 ; 電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn 5/CM2 (JIS H 8610) 丸座部分とボルト部の接合 ; アーク溶接 形状寸法 : 図-1.2 土台の樹種 ; すぎ製材(断面寸法;105×105mm、無等級材)
	試験体数	7体 (うち1体は予備試験体)
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1に示す。 2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠規準	「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(平成14年6月)、2章 木造軸組構法住宅の各部要素の試験方法と評価方法、pp. 131~153」((財)日本住宅・木材技術センター)に準じて行った。
	試験装置	図-2
	載荷方法	予備載荷用試験体は単調引張載荷、本試験は一方向の繰返し引張載荷とした。繰返しは、予備試験で得られた最大荷重時変位 δ_{max} の1/10, 1/15, 3/10, 2/5, 1/2, 3/5, 7/10, 1倍の順で各1回行った。(予備試験の降伏変位 δ_y が5.0mmと大きな値であったため、最大荷重時変位を基準に繰返し変位を定めた。)
	試験体の設置方法	試験体は木製土台端部をアンカーボルトを用いて300mm間隔で固定した。アンカーボルトの締め付けトルクは40N・mとした。
	測定機器	荷重値の検出には100kNロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定には、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。
試験結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験結果の一覧 ----- 表-2 ・ P-δ 曲線 ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を〔付録1〕に示す。	
	短期基準接合耐力 (Pt) : 19.4kN 短期基準接合耐力の算定方法を〔付録2〕に示す。	
構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 今西 達也		